PRESS RELEASE

令和３年１月 29 日

公益財団法人
静岡県産業振興財団

知的財産マッチング事業における

製品発表会（非接触給電サインボード）開催のご案内

報道・マスメディア様向け

大手オフィス家具メーカー「株式会社イトーキ」の知財（開放特許）を活用して開発した非接触給電サインボード
（開発企業　：　株式会社フクダサインボード）

拝啓

新春の候、時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

弊財団では、静岡県内の中小企業に対し、大手企業等の開放特許を活用した製品開発の機会を提供する「知財マッチング事業」を、平成 28 年度より実施しております。

この度、本事業による製品化が実現いたしました。具体的には、浜松市内の看板メーカーである株式会社フクダサインボードが、大手オフィス家具メーカーである株式会社イトーキの開放特許を活用し、いつでも簡単に掛けかえることができる「非接触給電サインボード」を開発、製品化しました。

つきましては、各報道・マスメディアの皆様にご覧いただきたく、下記の通り「製品発表会」を開催いたします。

ご多忙のところ恐縮ですが　何卒ご来臨をいただければ幸いです。

略儀ながら書中をもちましてご案内申し上げます。　　敬具

日時	令和３年２月 10 日（水）13：00 ～ 14：00
会場	静岡県産業経済会館３階　特別会議室（静岡市葵区追手町 44-1）
主催	公益財団法人静岡県産業振興財団
出席者	株式会社フクダサインボード（製品説明） 株式会社イトーキ（知財説明）

※　誠に恐れ入りますが、本発表会へのご参加は、報道・マスメディア関係の方に限らせていただきます

※　当日のお席を準備させていただく都合上、お越しいただける場合は、事前にご連絡いただけると大変ありがたく存じます。

※　当日は、会場内での密を避け、十分に感染対策を施した上で開催いたします。

本件に関するお問合せ先

公益財団法人静岡県産業振興財団　担当 高橋　☎ 054-273-4434　EMAIL　chizai@ric-shizuoka.or.jp

株式会社フクダサインボードによる、大手企業（株式会社イトーキ）が提供する開放特許を活用した”オープンイノベーション事例”

レールに引っ掛けるだけ、ワイヤレスで発光、入れ替え自由の次世代型サインボード

この度、株式会社フクダサインボードは、大手企業（イトーキ株式会社）が保有する開放特許を活用した「非接触給電サインボード」を開発しました。これは、コネクタや金属の接点を介さずに、ワイヤレスでサイン文字等を発光することができる、次世代型「電飾サインボード」です。

大手企業（株式会社イトーキ）の開放特許を活用したオープンイノベーションを実現

本製品は、大手オフィス家具・事務機器メーカーである株式会社イトーキの開放特許を使用しています。

使用している特許は、「フックの引掛けによる接触給電」。コンセントでの給電をフックの引っ掛けでの給電（接触給電）に代えることが可能な特許技術です。

コネクタ接続や充電が不要になるので、場所や環境に左右されない給電が可能となります。

昼はカフェ、夜はバーなど、近年拡大している「二毛作ビジネス」に着目

本製品の想定市場は広範囲に渡りますが、中でも近年拡大傾向にある「二毛作ビジネス」を主要市場の一つと捉えています。二毛作ビジネスは、昼はカフェ、夜はバーなど、時間帯や曜日に応じて業態を変えるというもの。

例えば、非接触給電サインボードを使用し、カフェ時間帯のサインと、バー時間帯のサインを簡単に切り替えるというイメージです。

二毛作ビジネスにおいては、店の雰囲気を変えることが大きなポイントとなります。通常は看板の架け替えは、配線や固定器具を外すなど、かなりの手間がかかりますが、非接触給電サインであれば、いつでも容易に架け替えが可能です。

非接触給電サインボードのイメージ

「大手企業知財マッチング会」をきっかけに開発スタート、試作を重ね 2 年 10 カ月後に製品化へ

本製品は、平成２９年１１月２４日に開催した「知的財産マッチング in 静岡」をきっかけに開発が始まりました。マッチング会を通じて株式会社イトーキが提供する開放特許「ハンガーを利用した非接触給電」の存在を知った㈱フクダサインボード福田社長が、サイン（看板）への活用を構想しました。

平成３０年３月にイトーキとライセンス契約（実施許諾契約）を締結し開発がスタート。何度も試作品を製作、改良を重ねながら、約２年１０カ月後、製品化を実現しました。

開発には、（一社）静岡県発明協会・浜松いわた信用金庫、（公財）静岡県産業振興財団の３者も伴走し、寄り添う形でサポートしてまいりました。しかしながら、何よりも㈱フクダサインボードの高い技術力と、並々ならぬご努力によって製品化に至ったことは間違いありません。

製品発表会当日は、実際の製品を展示いたします。是非、ご取材いただければ幸いです。